

上野総合市民病院だより



平成27年5月号(通刊第3号)

企画:伊賀市立上野総合市民病院

病院機能再開発センター

発行:伊賀市立上野総合市民病院

関西医科大学寄附講座設置調印式

関西医科大学への寄附講座消化器肝臓内科学講座(地域医療学)設置のための協定調印式が、3月31日(火)15時から伊賀市役所において執り行われました。

当日は岡本栄伊賀市長出席のもと、関西医科大学 山下敏夫理事長名代として、今回の寄附講座の設置にご尽力いただきました、内科学第三講座 岡崎和一主任教授をお迎えし、協定書への署名がなされました。

この寄附講座は伊賀市が少子高齢化時代を迎え、高齢者の内科疾患、消化器系慢性疾患や悪性腫瘍の診療・研究に資すること、また今後の高齢者医療、福祉の総合的かつ継続的な支援の充実、その実現に向けた体制作りを進め、伊賀市をモデル地区として実践的研究を行うためのものです。

これにより、平成27年4月1日から本寄附講座に所属する八尾隆治医師、光山俊行医師の2名の内科医が上野総合市民病院に出向し支援を行ってくださることとなりました。

かねてからの念願でありました消化器・肝臓内科医の着任を一里塚として、伊賀市における医療の充実と市民の方々が安心していただける医療の提供の為に、今後より一層取り組んでまいります。

副院長 福永 泰治



* 地域集学治療センターの稼働状況について

この4月「地域集学医療センター」を立ち上げ、新病棟としてスタートしました。私たちの病棟は、がんを中心とした総合的な治療を中心とする患者さんのための病棟です。主にすべての悪性腫瘍の術前評価、術後補助化学療法を中心とする集学的医療、緩和医療、終末期医療の患者さんが多数入院しており、がん医療に関わるすべてを統括する病棟として運営しています。当病院で受けられた患者さんだけでなく、他病院で初期治療を受けられた患者さんも受け入れ、紹介元の病院と連携して支援していきます。

センターの病床数は32床で、腫瘍内科、外科・消化器内科、泌尿器科、緩和医療科、放射線科からなる医師6名、がん化学療法看護認定看護師1名、病棟専従薬剤師1名と、総看護スタッフ20名による2交代制看護勤務で運営しています。開設後1ヶ月の1日当たりの平均入院患者数25名、平均病床稼働率74.6%、看護必要度クリア率は24.0%でした。

ご家族、患者さんのご意向を中心とした看護を提供し、常に多くの患者さんが利用できるように、スムーズに入院を受け入れる体制を整えたいと思います。またご自宅で患者さんの希望する場所で療養が続けられるように、多職種チームメンバーと連携を図り、家族とのつながり、自宅(人・場所)とのつながりを大切にし、医療を提供したいと思います。

5階病棟師長 福迫 朝子



* JEFFスカラーシップ賞の受賞講演

先ごろ開催された第30回日本静脈経腸栄養学会学術集会(神戸国際会議場、2月12日)において、昨年度JEFFスカラーシップ賞を受賞した本院の管理栄養士 白井由美子さんが、受賞者講演会を行いました。

発表は、化学療養施行中のがん患者さんにエイコサペンタエン酸(EPA)を用いての栄養サポート(介入)を行ったところ、栄養状態の改善と共に化学療法の継続率が大幅に向上したとの内容で、司会の土屋 誉先生(仙台市医療センター仙台オープン病院)からのお褒めとお祝いのお言葉を頂戴しました。



講演後に撮影された記念写真

左から三木 誓雄(伊賀市立上野総合市民病院 病院長)、岡本 京子(同看護部)、白井由美子(同栄養管理課)、石渡 一夫様(小社代表取締役)、土屋 誉先生(公益財団法人仙台医療センター仙台オープン病院外科)

(PEN 静脈経腸栄養学会ニュース vol.33/No.4 (2015.4.1)から引用)

* 医療型療養病棟のご案内



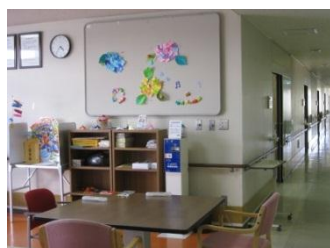
4月1日より、約1年ぶりに療養病棟が再開となりました。医療型療養病棟とは、急性期医療の治療後、引き続き医療提供の必要性が高く、病院での療養が継続的に必要な患者さんにご利用いただく病棟です。

当院では、一般病棟での急性期治療終了後、在宅への退院を予定している患者さんや施設入所が決まっている患者さんを対象に受け入れています。一般病棟での治療により病状が安定した患者さんが、日常生活の自立を目指し、一日も早く元の生活を取り戻し家庭復帰できるための環境を調整したり、他施設へ看護・介護を継続させることを目標としています。

診療は2名の医師が担当いたします。病棟の概要は、4人部屋32床、トイレ付個室8床。看護体制は25:1看護配置で、日勤帯は看護師2～3名、看護補助者1～2名、夜間は看護師、看護補助者ともに1名となります。入院期間は3か月以内で、厚生労働省が定めた医療区分およびADL区分により包括評価を行っています。

療養病棟は、一般病棟とは一味違い家庭的な温かい雰囲気では患者さんに快適な入院生活を提供する場合もあります。スタッフは笑顔とふれあいを大切に、患者さんが持っている力に合わせた日常生活ができるように、機能訓練・看護・介護を提供します。

院外からの転院は家族面談が必要です。またレスパイトケア目的の入院も受け付けています。詳細については、地域医療連携室までお問い合わせください。



療養病棟師長 長川 光

新任医師のご案内

4月14日付けで松浦省三医師が着任いたしました。

療養病棟を担当いたします。

本年4月14日から療養病棟担当として着任いたしました。

岐阜大学卒業後、放射線科に入局、以後民間の二次救急指定病院（放射線科・内科）、保健所長から衛生行政、そして僻地国保診療所と、それぞれ約10年前後の期間で転々としてやってまいりました。

僻地診療で、もうこれが最後の勤めにしようと思いましたが、何もしなくなるともう一度お役に立てるのではないかとこの気持ちがふつふつとわき起こり、斡旋業者を通して多くの病院を紹介された中で、上野総合市民病院の再建整備に微力ながら役に立てるものならお役に立ちたいという気持ちで決心してやってまいりました。

専門科の先生方のお力をお借りしながら、人生の最終章を生きておられる先輩の患者さん方に何とか寄り添いながら、自分自身のこれからの高齢期に向けた人生勉強をさせていただけたら幸いです。



松浦 省三

新事務部長着任のご挨拶

4月より赴任させて頂いた事務部長の諦乗(たいじょう)です。よろしくお願いいたします。



私の自己紹介をさせて頂きます。私は、三重県厚生連に事務職として入会し、松阪中央総合病院を振り出しに医療事務員として34年間勤務しました。事務経験業務としては、医事課・総務課・物品課・薬剤事務課を経験し、企画課長・事務部長を歴任しました。厚生連での思い出深い業務としては、伊賀市の特別養護老人ホーム『彩四季』建築及び運営・いなべ市の『いなべ総合病院』建築及び運営・『危機管理室』の立ち上げであり、JA中央会では『高齢者対策事業』に携わった事です。その後、市立尾鷲総合病院で5年間事務部長として働き、24時間365日救急体制を維持してきました。各地域により、地域医療に関する住民の思いが異なる事を、それぞれの地で教えて頂きました。

私の地域医療に対する思いは、地域の皆様の医療に対する声をよく聴き、地域住民参加型病院を育てる事を目指しています。

私の故郷である伊賀の地に戻り、今までの医療経験を踏まえて、地域の皆様、職員の皆様に少しでもお役に立てる様に頑張っていきたいと思っています。

伊賀での医療については、まったくの未経験でございますので、皆様方のご支援、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

事務部長 諦乗 正



特別養護老人ホーム『彩四季』



『いなべ総合病院』

院内講演会が開催されました

* 全国自治体病院協議会 邊見公雄会長による講演会が開催されました

昨年に続いて「生命輝かそう 伊賀市立上野総合市民病院(2)」のタイトルで邊見先生の講演会が岡本伊賀市長の出席も得て、4月17日(金)夕に開催されました。

地域ビジョンに関しての開設に始まり、自治体病院の広報活動のあり方、収支向上への試みなど、先生が以前赤穂市民病院院長で活躍された当時の経験談も交えて熱心にご講演いただきました。講演後の質疑にも丁寧にお答えいただき、上野総合市民病院としても参考となる点が多く実りある会となりました。職員一同市民参加を念頭に今後の病院運営に生かして行こうと誓い合いました。

